

## 2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 尼崎市立武庫東中学校 ] 担当教諭名 [ 白井 麻矢 ] ( 社会科クラブ 35名 )


相手国・地域 [ リトアニア ]

海外学校名 [ Laurynas Ivinskis Gymnasium ] 担当教諭名 [ Valdone Verseckiene ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	クラブ活動	アートマイル学習	145

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	16. 平和と公正をすべての人に
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<p>Each of us is different, and each of us thinks differently. However, everyone in the world has a desire for peace. Let us make peace bloom in the hearts of the people around the world, and hand in hand, let us build a better future.</p> <p>私たち一人ひとりとは異なり、考え方も違います。しかし、世界中の誰もが平和への願いを抱いています。世界中の人々の心に平和の花を咲かせ、手を取り合って、より良い未来を築いていきましょう。</p>
	

### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の実現に向けて、世界で起こっている様々な問題を理解することができた。</li> <li>・「平和とは何か」ということを多面的に捉え、様々な角度から考えを深めることができた。平和な世界を目指すためには、まず一人ひとりが自分の国の政治に目を向けることが大切であり、有権者として正しい判断を下すための力をつける必要がある。そのために、現在中学校で学んでいるのだということに結び付けて考えることができた。</li> <li>・活動の中で、実際に戦争を体験した方の話を聞く機会があった。その体験を通して、自分たちは戦争を経験していないが、戦争の恐ろしさを語り継いでいく責任を担っているという意識を持つことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとたくさんの情報をこまめにパートナーと共有すべきだった。</li> <li>・学んだことや考えたことをもとに情報を発信したり、自分たちにできることを実践に移したりすることが十分にできなかった。</li> </ul>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界には様々なルーツを持つ人々が、それぞれの文化を大切にしながら生活しているという意識を持つことができるようになってきた。自分たちの「当たり前」は世界中の人々の「当たり前」ではなく、だからこそ互いの文化を尊重する意識を持つことがどれだけ大切なことか意識するようになってきた。</li> <li>・離れていても、違う文化を持つ国でも、同じ地球で暮らしている人間として、共通の思いを思っより良い未来を目指していくことは可能であると感じるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本にいて耳に入ってくる世界についての情報は、あくまでも日本やアジアから見た情報であり、国や地域が変わればまったく違う情報が流れているということがわかった。</li> <li>・議論するとき、相手に自分の意思をくみ取ってもらおうとする受動的な姿勢ではなく、拙い英語であっても自らの言葉で伝えようとする意識が大切だと感じた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 ～ 8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラムにて自己紹介</li> <li>・日本や世界で起こった戦争について調べ、校内掲示を行った。</li> <li>・被爆者の方に学校へお越しいただき、戦争の体験について実際の話を聞いた。聞き取った内容や感じたことを掲示物にまとめ、校内掲示を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自国や世界の戦争の歴史を調べることで、平和への関心が高まった様子が見られた。</li> <li>・実際に広島で被爆された方からお話を聞くことで、現在の自分たちの生活がいかに恵まれたものであるかということに気づいた様子だった。自ら質問するなど、積極的に話を聞こうとしていた。</li> </ul>	クラブ 活動
共有 <small>相手と意見交換</small>	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマについて調べたことをフォーラムにて共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のメッセージを読み、自分たちの考えを深めている様子が見られた。</li> </ul>	クラブ 活動
融合 <small>メッセージ作成</small>	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインミーティングにてお互いの調べたことを報告</li> <li>・壁画に込めたいメッセージについて各々考えたことを伝え合い、共有</li> <li>・SDGsやアートマイルについて紹介するための動画を作成し、文化発表会にて発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁画についてのメッセージを共有した。</li> <li>・オンラインミーティングは昨年度も行っており、以前よりパートナーの言葉を聞き取ることができ、喜びを感じていた。</li> <li>・テーマ学習だけでなく、互いの素朴な疑問を問いかけ合うなど、和やかな雰囲気のもとで行うことができ、交流を楽しんでいる様子が見られた。</li> </ul>	クラブ 活動
創造 <small>壁画制作</small>	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁画制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に考えたメッセージを具体的な形として実現させることの難しさを感じている様子であった。</li> <li>・みんなで一つの作品を作り上げていく楽しさを感じている様子だった。</li> </ul>	クラブ 活動
評価 <small>振り返り 自己評価</small>	1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによる振り返り</li> <li>・壁画鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間かけて完成させることができた作品を見て、感動していた。</li> <li>・日本側の作品にうまく融合させながら素晴らしい作品を作ってくれたパートナーへの感謝を感じていた。</li> </ul>	クラブ 活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	世界の様々な国々の文化に目を向けるだけでなく、日本との相違点を探るために自国の文化にも目を向けるようになった。また、自分の国の歴史についても調べを進めることで、平和を大切に想う気持ちが強まり、その想いを次の世代へ引き継いでいこうとする意識の変化が見られた。
主体的に考え行動する力	5	「平和な世界を目指すために、自分たちには何ができるのだろう」「ある企業ではSDGsについてこのような取り組みを行っているので本校でも参加してみたい」など、自ら調べ、考え、周囲へ発信しようとする意識が芽生えた。今までは教師の指示を待つ生徒が多かったが、自ら行動しようとする力がついた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	グループでのディスカッションなど、相手の意見を聞いて理解することはできるが、批判的に思考し、相手に伝える中で議論を深めていく力にはまだ課題が残っているように感じた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	自分とは文化も言語も異なる人々の意見に耳を傾け、同じ目的に向かってともに進んでいこうとする前向きな姿勢が見られた。また、自分たちが調べたことについて、パートナーはどう感じるのかを問いかけることで、新たな発見を得ることができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	日本とロシアの生徒の想いを融合させたメッセージを作成し、そのメッセージを込めた壁画のデザインを考えることができた。また、より良い作品にするために丁寧に作業を進めることができた。